

平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧（1/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
人間文化学部 国際文化学科	鄭銀志	2018年6月26日 14時50分～16時 10分	広島キャンパス 1212 会議室	テーマ： 授業外学修時間の実態改善を目指した組織的な検討Ⅰ
				実施目的： 授業外学修時間の実質的な増加と授業の改善に向けて、学科として組織的な検討を試みる。
				キーワード： 授業外学修・授業外課題・学修成果
				<p>実施内容：</p> <p>国際文化学科では、平成30年度の授業外学修時間の実態改善を目指し、標記のテーマで年間2回に亘る学科FDを実施し、学科としての組織的な検討を試みた。</p> <p>第1回目のFDでは、授業外学修時間の実質的な増加と授業の改善のため、学生による「授業評価アンケート集計結果」（平成27～29年の3年間）を基に、学科専門科目のうち、学外学修時間が長く、さらに授業満足度の高い科目を取り上げ、日本・東アジア・英米の3分野から3人の教員が実践報告を行った。主な報告内容は、1. 翌週の補足発表の実施による学外学修時間の増加と授業満足度の向上、2. 毎週実施する学外学修による授業外学修時間の増加と課題、3. 学生の「自己評価表」作成による授業外学修時間の増加と学修効果、ということで、これらの報告に対して学科教員からの質疑応答や自由な意見交換が行われた。</p> <p>そのほか、3人の学科教員からの事例と提案（1.「シャトルカード」使用による授業外学修時間の改善方法、2.学内ポータルシステムでの事前課題提示による授業外学修時間の促進方法、3.ポータルシステムの使い方に関する説明、4.歴史科目における授業外学修の事例など）を共有し、授業外学修時間の改善に向けたより実践的で具体的な方法を模索した。</p> <p>今回のFDの成果は、後期の授業運営に全面的に反映し、その状況を第2回のFDで報告することにした。</p>
人間文化学部 国際文化学科	鄭銀志	2018年11月6日 14時40分～16時 10分	広島キャンパス 1212 会議室	テーマ： 授業外学修時間の実態改善を目指した組織的な検討Ⅱ
				実施目的： 授業外学修時間の実質的な増加、及びそれに連動した学修評価の改善を目指す。
				キーワード： 授業外学修・授業外課題・学修評価
				<p>実施内容：</p> <p>このFDでは、授業外学修時間の実質的な増加、及びそれに連動した学修評価の改善を目指し、第1回のFD（2018年6月26日）の成果と、平成30年度前期「学生による授業評価アンケート」結果（「授業外学修時間」が今年度2.62、昨年度2.54で0.08増加、「全く学修していない」も今年度6.1%、昨年度9.0%で3.0%減少）を踏まえながら、後期の授業開始時において、授業外学修の課題と学修評価方法（試験と成績評価）</p>

平成30年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧（2/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
人間文化学部 国際文化学科	鄭銀志	2018年11月6日 14時40分～16時 10分	広島キャンパス 1212 会議室	<p>をどのように提示したか、それが学修状況にどのような変化を及ぼしているかについて、16人の学科教員による実践報告（うち2名はFD報告レポート提出）を行った。</p> <p>主な報告内容として、1. 発表レジュメの事前提出による授業外学修時間の促進、2. 第1回のFDで提案された「シャトルカード」による、授業外学修時間の改善及び授業満足度の向上促進、3. グループ発表課題の事前提示による授業外学修時間の増加促進、4. 語学教育における外国語でのプレゼンテーション課題の提示による、受講者の学修意欲と授業外学修時間の増加促進、5. 学内ポータルシステムでの事前課題の明示と、及び小テストやミニレポート、レポートなどの授業外学修の課題に対する適切な評価、6. 個々人に目配りした的確な評価基準の設定（同一発表グループ内でも個人差があるため）、7. 中国語のeラーニングシステムの導入による、学生の学修時間の増加と学修成果の向上、8. PBL型授業による授業時間外での質問の増加、9. 集団討論のための事前課題の提示による学修時間の増加などである。これらの報告を基に、参加者全員で自由な意見交換を行った。本年度のFDの成果は、既に平成30年度前期の「学生による授業評価アンケート」結果からも分かるように、「授業外学修時間」の実質的な増加が見られており、一定の成果を上げたと言えよう。次年度も学生がより自主的にかつ積極的に授業外学修へ取り組めるように、教員同士の情報交換や検討、工夫を継続していきたい。</p>
人間文化学部 健康科学科	栢下淳 神原知佐子 谷本昌太 辻文 森脇弘子 三浦朗	平成30年 9月30日 および 平成30年 11月13日	広島キャンパス 1215 会議室	<p>テーマ： 栄養教諭養成についての組織的取り組み</p> <p>実施目的： 栄養教諭養成に関する専門家を講師として招き、学科教員による勉強会を実施し、組織的教育の実現を目指す。</p> <p>キーワード： 栄養教諭養成 組織的教育 情報共有</p> <p>実施内容：                      栄養教諭養成に関する専門家を講師として招聘する。それぞれ専門の立場から下記の内容についての講演を行っていただき、その後、意見交換会を実施し、健康科学科における組織的教育の実現を目指す。                      前期：熊谷客員教授（栄養教諭とは？、栄養教諭を目指す学生の指導について）                      栄養教諭の立場から栄養教諭養成についての講演を行った。                      後期：門戸教授（教職を目指す学生の指導について、高大連携について）                      教員、管理職教員の経験に基づいて講演を行った。</p>

平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧（3/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
経営情報学部 経営学科	和田 崇	平成 30 年 9 月 ～ 平成 31 年 1 月	広島キャンパス	<p>テーマ： はなし家に学ぶ話し方・伝え方</p>
				<p>実施目的： 本事業は，参加型学修あるいは行動型学修にかかる手法を導入しても肝心の学修者の能動性に火がつかなければ効果が乏しいし，そうした手法の導入にこだわらなくても，授業の中身が面白ければ，一方向の授業でも学修者を惹き付けられるとの認識に立ち，まずは一方向型授業でも学修者を魅了できる授業力をつけることを目的とする。</p>
				<p>キーワード： アナウンサー，落語家，キャビンアテンダント</p>
				<p>実施内容：</p> <p>（概要）</p> <p>アナウンサーと落語家，専門学校講師に経営学科教員の行う授業を参観してもらうとともに，彼らを講師とした講習会を開催することにより，聞き手の状態やニーズを看取するコツ（感じ取り方），聞き手を惹き付ける話し方，内容を理解し自らの問題として考えてもらえるような伝え方を学び，身につけることを目的として，授業参観と講習会，事後研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業参観（10月4日～11月9日）：講師5名が経営学科教員10名の授業を参観</li> <li>○ 講習会（11月14日・12月12日）：講師5名が授業参観をもとに授業改善策を提案</li> <li>○ 事後研修（1月9日）：授業参観および講習会実施後の授業改善状況を報告・討議</li> </ul> <p>（成果）</p> <p>経営学科教員は授業参観と講習会を通じて，授業準備の徹底，導入の工夫（枕の採用），話す姿勢の改善，服装の変化（スーツの常用），マイク使用方法の改善，授業で伝えたいこと（伝えるべきこと）の厳選，話す際の「間」の導入・工夫などを実践するようになったことが確認できた。</p> <p>（課題）</p> <p>研修成果を平成31年度以降の授業等において継続的に実践することが必要である。また，本事業で招聘したアナウンサーや落語家等以外の外部講師を招聘し，話し方と伝え方について引き続き研修を行うことも考えられる。</p> <p>（注）本事業は「平成30年度県立広島大学FD活動促進事業」の助成を受けて実施した。</p>

平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による F D 活動（教育改善）報告一覧（4/15）

F D 活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
経営情報学部 経営情報学科	広谷大助 佐々木宣介 重丸伸二 富田哲治 陳春祥	前期は 火曜日 5 限。 学科会議等不定 期に実施	広島キャンパス 講義室，会議室 等	<p>テーマ： 学修意欲の促進につなぐ初年次専門研究紹介の取組とその検証</p>
				<p>実施目的：経営情報学科では，平成 29 年度から初年次導入科目として「経営情報学研究序論」を開講した。この科目は，オムニバス方式で専任教員並びに外部講師による各分野での専門科目内容及び専門研究を分かりやすく紹介することにより，学修の方向性を明確にし，学修のモチベーションを高めることを目的としている。平成 29 年度では振り返りで採集した感想・関心事などを全教員間で情報を共有し，組織的な教育強化などを図った。平成 30 年度では，昨年度の FD 取組をもとに更に発展させ，振り返りシートから得られた興味・関心・感想のテキスト情報をデータマイニング手法を用いて分析して，共起ネットワークなどの関係図を示すことにより，教員が学生からのフィードバック情報を視覚的に把握しやすくなり，今後の授業へ活かすことにつながることを期待する。</p>
				<p>キーワード： 組織的教育，データマイニング，アクティブラーニング</p>
				<p>実施内容：</p> <p>前期毎週の火曜日 5 限に，各回 1 名の教員が 1 時間程度で研究紹介をし，その後，学生に対して，20～30 分程度で振り返りシートを用いて，理解度の確認，今回のテーマに関する関心事，今後の学修へ活かす点などについて聞いた。本年度は外部講師 3 組と経営情報学科所属の 15 名の教員のうち 12 名が講義を行った。</p> <p>昨年度と今年度の振り返りで採集した学生の関心事，感想及び質問をデータマイニングという手法を用いて分析し，感想及び関心事のつながりを可視化した。分析では KH coder と呼ばれるソフトウェアで分析し，共起ネットワークを作成した。興味・関心事及び疑問点を視覚的に把握できるようにした。</p> <p>分析結果は担当の教員にフィードバックし，学科会議で学生からの質問，感想，理解度，今後への活用などを全教員間で共有するとともに，本取組の目標設定，運営方法，教員への浸透状況などを振り返り，横断的，組織的な教育強化を図った。この取組を通じて，今後専門科目の授業へ活かすことにつながると期待できる。</p>

平成30年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧（5/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
生命環境学部 生命科学科	五味 正志	平成30年6月 4日～7月23日	庄原キャンパス 大講義室 各研究室	テーマ： 大学基礎セミナーの実施方法の改善についての検討
				実施目的： コース選択及び研究室配属を意識させ、卒業研究をスムーズに開始できるようにする。
				キーワード： 研究室訪問、質疑応答、レポート作成
				実施内容： コースごとに教員が専門の内容を紹介した後に少人数で各研究室を訪問する形式で実施した。食品資源科学コースは、教員の専門分野の説明についてノートをとって疑問点を調査する方式で、応用生命科学コースは、教員から提示された課題を学生が調査する方式で実施した。この方式については H27 年度から、毎年、少しずつ改善を加えて実施している。これまでの3年間のアンケート調査で、訪問研究室の選定方法に対する評価が低かったことから、本年度はその点を少し改善して実施した。しかし、今年度のアンケートにおいても評価はほとんど変わらず、学生の満足度が向上したとは言えない結果であった。その理由として考えられるのは、学生と教員の間で実施内容の捉え方に差が見られることである。大学基礎セミナーの時間内で実施するため時間的な制約があり、訪問研究室を自由に選べないことや十分な時間が取れないことに不満があることが自由記述から読み取れる。しかし、この取り組みは、今後、学生が自主的に各研究室を訪問する時のハードルを下げるために実施しており、その趣旨が学生に十分に伝わっていないようである。この点はこれまでのアンケート調査から読み取れていたため、今年度は実施の趣旨を理解できるように説明したつもりであったが、うまく伝わっていなかったようである。次年度は伝え方をさらに工夫する必要があると考えられる。
生命環境学部 FDer	三苦 好治 (学部 FDer 代表)	9/25 (金)	庄原キャンパス	テーマ： アクティブラーニング及び授業ピアレビューについての意見交換
				実施目的： 授業ピアレビューの課題整理
				キーワード： 授業ピアレビュー、授業参観シート、アクティブラーニング
				実施内容： 授業ピアレビュー実施後の意見交換を行い、アクティブラーナー（ALer）養成に資する「参観シート」の改善点を整理した。
生命環境学部 FDer (全学 FD 会と 連携)	三苦 好治 (学部 FDer 代表)	10/19 (金)	庄原キャンパス	テーマ： ALer の育成を推進するために県立広島大学の授業で必要なことは何か
				実施目的： 教員・職員・学生の視点で、それぞれが考える ALer 養成に必要な要素を議論し合い、共通理解を得ること。
				キーワード： 教職学協働、授業、アクティブラーニング
				実施内容： 1. イントロ 5分間、2 課題の抽出（個人） 10分間、3 課題の抽出（グループ） 20分間、4 解決策の探求【全体討議】 20分間、5 新たな気づき【全体討議】 15分間、6 総括 5分間、7 振り返り（個人）、アンケート記入 5分間のスケジュールに沿って実施した。

平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧（6/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生命環境学部 FDer	三苦 好治 (学部 FDer 代表)	11/20 (金)	庄原キャンパス	テーマ： ルーブリックについて
				実施目的： ルーブリックとは何か、また、その導入で教育の質の何が変わるのか、教員間でコンセンサスを形成することを目的とした。
				キーワード： ルーブリック、授業、アクティブラーニング
				実施内容： ・環境科学科の導入経緯や効果について概要説明（原田教授） ・生命科学科の現状について概要説明（入船教授） ・グループワーク
生命環境学部 FDer	三苦 好治 (学部 FDer 代表)	12/17 (月)	庄原キャンパス	テーマ： 庄原キャンパスにおける自律型行動学修の現状と今後の取り組み案について
				実施目的： 自律型行動学修による教育効果を整理し、キャンパス独自の取り組みで自律型行動学修を継続的に実施する方法はないか、検討・情報共有を行うことを目的とした。
				キーワード： 自律型行動学修、アクティブラーニング、就職
				実施内容： ・環境科学科での取り組み紹介～授業・就職という観点で～（小林准教授） ・今後の挑戦的取り組み（案）について（橋本准教授）

平成30年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧（7/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 FD委員会	吉川ひろみ 細羽 竜也	平成31年2月 12日4限目	三原キャンパス 1101大講義室	<p>テーマ：学生のヘルスサポーターマインドの育成における地域貢献事業の効果の検証</p> <p>実施目的：教育評価の対象として地域貢献事業に着目し、参加する各学科の学生への事業効果を、学生の育成の観点から評価・分析するため</p> <p>キーワード：ヘルスサポーターマインド、地域貢献事業、保健医療福祉</p> <p>実施内容： 年間を通じて行われる保健福祉学部各学科の地域貢献事業のうち、学生が参加した事業について、平成19年度～21年度に本学保健福祉学部で取り組んだ文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）で作成したヘルスサポーターマインドの評価表を用いて、学生への影響の検討を行った。具体的には、地域活動（認知症啓発行事・被災地支援等）に参加した保健福祉学部60名程度の学生について、活動前後でのヘルスサポーターマインドの評価尺度の変化にどのように影響するか検討したところ、コミュニケーション力（「違う立場や意見の人と話すことで学修を進めている」等）やニーズに気づき行動する力（「限定的な状況からニーズをくみ取る」「自分から行動を起こす」等）に関連する項目について、肯定的な回答が増加していた。学生からの感想にも貴重な経験であった旨の記述がみられ、学修意欲の向上にもつながっていた。</p> <p>これらの事業の報告に加え、各学科の取り組みも成果としてまとめ、2月12日に保健福祉学部で研修会を行った。プログラムについて、基調講演を吉川教授、各学科の取り組みを各学科教員が講演し、その後、参加教員によるグループワークを行った。最後に小野保健福祉学部長にご講評いただいた。研修会参加者は42名であった。研修会について、アンケート回答者33名のすべてが研修会を肯定的かつ有益と評価しており、地域貢献事業の学生教育に与える有効性を指摘したコメントを多く頂いた。</p>
保健福祉学部 看護学科	FD/教育課程 検討会担当教員	※次ページ	三原キャンパス 2210会議室	<p>テーマ：組織的な教育課程の編成と教育力を高める取り組み</p> <p>実施目的：教育目的・目標を達成する教育課程の構成を検討し、教育内容の質向上を図る</p> <p>キーワード：教育課程、多職種連携</p> <p>実施内容： （1）学部再編にむけた教育課程表作成 ・看護学教育モデル・コア・カリキュラムを基本とし、本学の理念に基づいた教育課程を検討した。 ディプロマ・ポリシー達成に向けた教育課程表の素案を作成し、学科で意見を集約しながら必要な科目を段階的・体系的に配置した。</p>

平成30年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧（8/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 看護学科	FD/教育課程 検討会担当教員	①H30. 4. 4(水) 16:20～18:00 ②H30. 4. 27(金) 16:20～18:20 ③H30. 5. 31(水) 16:20～18:20 ④H30. 6. 19(火) 9:00～10:30 ⑤H30. 9. 25(火) 16:20～17:30 ⑥H30. 10. 18(木) 16:20～17:40 ⑦H30. 11. 9(金) 14:40～16:20 ⑧H30. 11. 29(木) 10:40～11:45 ⑨H31. 1. 10(木) 10:40～12:30 ⑩H31. 2. 15(金) 14:40～15:50 ⑪H31. 3. 11(月) 14:40～16:10	三原キャンパス 2210 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程表の最終案は学士課程等準備部会へ提出した。（２）学修支援アドバイザーの活用</li> <li>・本学科における学修支援アドバイザーの継続した活用について意見交換を行い、運用マニュアルを作成した。・昨年に引き続き実習前技術演習や下級学年授業への参加，国家試験学修のサポート等を実施した。</li> <li>・新たな学修支援アドバイザーの確保のために講習会を４回（8/30，2/19，3/20，3/26）実施した。</li> <li>・学修支援アドバイザー新規登録者数20名，総数51名で，学年の内訳は4年生23名，3年生22名，2年生6名であった。</li> <li>・学習支援アドバイザー活用科目の整理，事後アンケートの集計・報告などをおこなった。</li> <li>・本件の状況は平成30年度保健福祉学部FD研修会にて実践を報告した。</li> </ul> <p>（３）FD研修会の企画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究活動において知識・技能や能力向上のための研修会を実施に向けて、「全学人材育成目標」に基づく教育研究活動において支援されるFD活動促進事業助成金に応募し，採択された。</li> <li>・研修会のテーマ，講師選定，運営方法などの検討を重ね，計画した。</li> <li>・研修会は“多職種連携”“人材育成”が重要なキーワードであり，本学全キャンパス・県内医療系大学・専門学校・自治体・近隣施設へ幅広く広報を行った。</li> </ul> <p>（４）国家試験対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年担当教員が主体となり模擬試験結果の分析を行い，学科全体で共有した。</li> <li>・合格基準C・D判定学生にはチューターと協力して，学修支援を行った。</li> <li>・3年生から模擬試験を導入し，低学年から国家試験対策の必要性を意識付けた。</li> <li>・国家試験終了後，サテライトキャンパスにて解答の確認を行い，表情や言動に不安を認めた学生に声をかけ，話を聞くなど対応した。</li> </ul>
保健福祉学部 看護学科	FD/教育課程 検討会担当教員	H31. 3. 7（木） 10:00～15:40	三原キャンパス 1101 大講義室	<p>テーマ： 地域を主体とした多職種協働による地域包括ケアシステムの推進と課題探求型地域創生 人材育成をめざした実践力・教育力・研究力の強化</p> <p>実施目的： 地域の特性を生かした多職種連携のしくみを理解し，課題探求型地域創生人材育成を 目指した実践力・教育力・研究力の強化</p> <p>キーワード： 長寿社会のまちづくり，地域包括ケアシステム，多職種連携</p> <p>実施内容： FD研修会「地域を主体とした多職種連携・協働による地域包括ケアシステムの推進」開催</p>



平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧（9/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 看護学科	FD/教育課程 検討会担当教員	H31.3.7（木） 10:00～15:40	三原キャンパス 1101 大講義室	<p>看護学科教員および保健福祉学部教員・学生・大学院生、保健福祉学部に関係する施設および病院関係者等、幅広く参加を呼びかけた。</p> <p>（研修内容）</p> <p>第1部：秋山弘子氏（東京大学高齢社会総合研究機構特任教授） 「長寿社会のまちづくり：地域包括ケア」について講演</p> <p>第2部：沖田光昭氏（尾道市立総合医療センター公立みつぎ総合病院） 「地域包括ケアシステムにおける人材育成」について講演</p> <p>本学部各学科卒業生に、「その人らしい暮らしを支える多職種連携—それぞれの立場からみえるもの—」というテーマで、訪問看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーの立場で、実践報告をしていただいた。その後、卒業生5名に医師の沖田氏も交えた6名のパネリストと、研修会参加者による質疑応答・意見交換を行った。</p> <p>総評では、秋山氏は、沖田氏の提唱する地域包括ケアシステムのイメージ、卒業生が報告した事例の貴重さに触れた。これからの専門職には、新しいライフスタイルと多様な価値観をもつ利用者の“夢を実現するための実践”が求められること、地域包括ケアシステムは個別事例の課題解決を積み重ねたまちづくりであると述べられた。</p> <p>（参加者数）</p> <p>計115人（学内46人、学生・27人、一般42人）であり、参加者全員が「大変」「まあまあ」をあわせ肯定的な回答であった。</p> <p>（研修の成果）</p> <p>「個別事例からまちづくりの視点でとらえた地域包括ケアシステムの共有」「地域課題に対する当事者性意識の向上：他人事ではなく自分事」「地域賦活ケア・マインドの育成：住民中心とQOLの向上」「実践の共有と他職種理解」「5学科の連携と協働による教育の発展」が、本FD研修会の成果と考えられた。特に、専門職としての卒業生による5学科合同の実践経験共有の場を学内でもつことは、学部基礎教育における、卒業後目指すモデルのイメージ化、他職種理解、多職種連携の推進において、有意義であることが示された。</p>
保健福祉学部 看護学科	実習検討会 担当教員	月1回（計11回） 90分/回	三原キャンパス 2416 会議室	<p>テーマ： 臨地実習教育の充実に向けた検討</p> <hr/> <p>実施目的： 臨地実習の円滑な運営と指導の充実を図る。</p> <hr/> <p>キーワード： 臨地実習，円滑な運営</p>

平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による F D 活動（教育改善）報告一覧（10/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 看護学科	実習検討会 担当教員	月 1 回（計 11 回） 90 分/回	三原キャンパス 2416 会議室	<p>実施内容：</p> <p>実習指導担当者協議会の企画・運営，次年度臨地実習要綱の作成，次年度実習計画の策定・施設への依頼を行った。また，季節性インフルエンザ対策の強化，SNS における個人情報取り扱いの啓発を実施した。白衣以外で実施する実習科目における学生の服装に関して，実習・学内演習用ポロシャツが購入できるよう企画・手配した。</p> <p>会議ごとに各臨地実習報告を行い，実習指導上の問題点や指導内容について情報共有及び意見交換を行い，実習指導体制や実習施設の環境の充実を図った。</p>
保健福祉学部 看護学科	実習検討会 担当教員	H30. 4. 20（金） 13：30～16：00	三原キャンパス 4102 会議室	<p>テーマ： 看護学科実習指導担当者協議会</p> <p>実施目的： 教員と実習指導担当者との情報共有・教育方法改善に資する。</p> <p>キーワード： 臨地実習，看護教育の質向上，連携強化</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前年度臨地実習報告</li> <li>2. 今年度臨地実習の概要説明</li> <li>3. グループ討議：「臨地実習で体験できることが限定されるなかで学生の看護実践能力をどう育てていくか～教員と実習施設側との連携強化～」というテーマでグループ討議を行った。まず，看護実践能力における注目すべき点や問題点を抽出し，実践能力獲得に向けた対策・連携強化案について討議した。学生に求める能力は，アセスメント力，コミュニケーション能力であり，地域包括ケアを視野に入れた関わりができる必要があること，教員と実習施設側との連携では，カンファレンスに教員・実習指導者が参加して信頼関係を構築し，学生を理解するように努める必要があること，また，学内の演習（シミュレーション）や臨床の演習に相互参加することで，教員と実習施設とが協働する機会を増やし連携を強化して学生を育成することが求められる，という意見が挙がった。 <p>（参加者）大学側：実習担当教員，臨地側：実習施設の看護管理者・実習指導担当者</p> </li></ol>
保健福祉学部 看護学科	保健師課程 担当教員	H30. 11. 30(金) 13:30～16:00	三原キャンパス 4102 会議室	<p>テーマ： 教員と実習指導者の情報共有及び教育方法の改善</p> <p>実施目的： 臨地実習について実習内容の振り返りを行い，効果的な実習指導のあり方を検討する。 また，実習指導者と教員の相互理解を深め，臨地実習における教育方法の向上を図る。</p> <p>キーワード： 臨地実習，保健師養成</p>

平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による F D 活動（教育改善）報告一覧（11/15）

F D 活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 看護学科	保健師課程 担当教員	H30. 11. 30(金) 13:30～16:00	三原キャンパス 4102 会議室	<p>実施内容：公衆衛生看護実習指導者会議の実施</p> <p>1 部「公衆衛生看護実習の振り返り」、2 部「学生の実態及び課題の共有化」の二部構成で行った。</p> <p>1 部では実習指導者アンケートの結果をもとに実施した実習内容を振り返り、実習指導の具体的な方法について共有した。2 部では実習中における学生カンファレンスに着目し、その意義や目的及び学生の現状（課題）について、教員と実習指導者とで共通認識を図った。その上で、学生が主体的で活発な意見共有を行い、学修を深めるカンファレンスの指導方法について検討した。具体的な改善策を決定し、次年度の実習指導で実施することとした。</p> <p>（参加者数）実習指導者 10 名（保健所 2 名、市町 8 名），保健師課程担当教員 5 名</p>
保健福祉学部 理学療法学科 塩川満久	佐藤勇太 (前期)	毎週水曜日 4 限 (後期)	毎週水曜日 1 限 三原キャンパス 2416 会議室	<p>テーマ： 「学生の動向を把握・共有する」, 「講義の形態・方向性を吟味する」 「各教員の研究領域の紹介」</p> <p>実施目的：「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」, 「さらなる専門教育の充実を図る」</p> <p>キーワード： 学生生活, 国家試験, 指定規則</p> <p>実施内容：</p> <p>(1) 「学生の動向を把握・共有する」について</p> <p>各学生の情報を共有することによって、指導、援助の一貫化を図った。毎週の学科会議での各学年のチューター・各担当教員からの報告を通して、配慮が必要な学生に関しては、情報共有をし、協議を行った。臨床実習の時期には、実習地訪問の結果なども共有した。</p> <p>(2) 「講義の形態・方向性を吟味する」について</p> <p>さらなる専門教育の充実を図るために、講義、学生指導のあり方について検討を行った。学科会議にて、国家試験模試の結果等を共有し、国家試験に向けた講義等に活かした。学科会議に合わせて月 1 回程、各種教授法の実践例の紹介などを通して情報共有し、今後の講義について吟味した。また、指定規則改定に向けた教育プログラムの構築も適宜実施した。各科目の学修到達状況についても情報共有・検討し、今後の教育内容の吟味を行った。</p> <p>(3) 「各教員の研究領域の紹介」について</p> <p>学科会議に合わせて月 1 回程、各教員の研究紹介などを行うことで、各教員の研究領域における成果・最新の知見等を共有して研究・教育能力の向上を図った。</p>

平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による F D 活動（教育改善）報告一覧（12/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 理学療法学科 塩川満久	佐藤勇太 (前期)	毎週水曜日 4 限 (後期)	毎週水曜日 1 限 三原キャンパス 2416 会議室	(1) (2) (3) の内容は、個人情報を含む学科特有の内容についての議論を要する。このため、公開は、内容によって判断し、公開可能なものに関しては事前に周知し、他学科教員の参加を得た。
保健福祉学部 作業療法学科	高木雅之	年 14 回 実施日：4/18, 5/23, 6/6, 6/27, 7/4, 7/18, 8/1, 10/3, 10/24, 11/21, 12/19, 1/23, 2/20, 3/20 時間：12:30～ 13:00	三原キャンパス 2406 会議室	<p>テーマ：作業療法士養成教育内容の充実</p> <p>実施目的：生涯にわたり学び続ける世界基準の作業療法士の育成を目指し、学科教員が連携をとり、学生の能動的な学修をサポートできる体制を構築すると共に、教育内容の充実を図る。</p> <p>キーワード：チューター、国家試験対策、カリキュラム</p> <p>実施内容：</p> <p>①国家試験対策方法の検討・実施・効果検証 国家試験全員合格に向けて学科全教員がそれぞれの役割を担い、学修をサポートできる体制づくりを行った。学生の学修経過を追いながら、取り組みの効果を検証した。</p> <p>②カリキュラムの改善 世界作業療法士連盟の教育最低基準や改正される厚生労働省の養成施設指定規則に沿って、臨床実習や必修科目の見直し等を行い、カリキュラムの充実を図った。特に、臨床実習におけるクリニカルクラークシップの導入を検討し、準備した。</p> <p>③最新の作業療法の動向や研究手法の共有 海外の作業療法の現状や近年の研究で使用されている手法について情報交換を行い、各教員の研究・教育能力の向上を図った。また各教員の専門領域に関する研究報告を行い、教員間の連携を強化した。</p>
保健福祉学部 作業療法学科	久野 真矢	H31. 3. 6	三原キャンパス 3214 講義室	<p>テーマ：指定規則改正の概要とこれからの臨床実習の在り方</p> <p>実施目的：今後の作業療法士育成のための現状と課題の把握</p> <p>キーワード：臨床参加型実習 作業療法教育 臨床実習</p>

平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による F D 活動（教育改善）報告一覧（13/15）

F D 活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 作業療法学科	久野 真矢	H31. 3. 6	三原キャンパス 3214 講義室	<p>実施内容：当学科臨床実習指導者会議において、大きな変革期を迎えている臨床実習体制および指導方法論について課題と今後の方向性を共有するため、実習指導者 35 名 + 当学科プロパー教員 10 名に対し、広島都市学園大学健康科学部リハビリテーション学科作業療法専攻長 丹羽 敦 教授に 80 分間の講義を行ってもらった。</p> <p>現在の臨床実習における課題として以下の側面から提示がなされた。1. 指定規則改正による臨床実習時間の減少、実習の教育目標への対応。2. 臨床実習目標の想起レベルの知識（認知領域）の習得への偏り。3. 現代の学生気質に対応した実習指導。4. 実習生への患者担当制による患者側の権利意識及び心身の侵襲性の問題。5. 臨床実習指導者－教員間のコミュニケーション不足。6. 養成校急増による臨床実習施設の不足。7. 学内教育から学外教育への一環した教育システムの不備。</p> <p>これらの課題に対して、教員と臨床実習指導者の両者において情報および目標を共有することの重要性、さらにコア・カリキュラムの整備に関する重要性について提言がなされた。また、今後、さらに臨床実習を取り巻く制度的背景は変化していく可能性があり、具体的な対応策について示唆がなされた。</p> <p>今後、具体的な臨床実習指導方法論など教員－臨床実習指導者間の情報および目標の共有を図るための計画立案において重要な起点となる講義であった。</p>
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	細川 淳嗣	原則水曜日 12:15-13:00	原則 三原キャンパス 内 1309/1310 演習室	<p>テーマ： 年間を通じた学科での教育改善活動</p> <p>実施目的：各教員が行っている研究・教育活動について学科教員などの間で共有を行うことにより、また、各教員が実施・参加した FD に関する研修などの内容を共有することで、学生教育の質向上を目的とする。さらに、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として年間を通して、教育課程の改善について検討を行う。</p> <p>キーワード： 教育の改善、研究活動情報共有、伝達講習</p> <p>実施内容：</p> <p>1. 第 6 回言語聴覚士養成校教員研修会報告 「言語聴覚士養成教育ガイドライン・コア・カリキュラム諮問委員会からの報告及び最終案の提案」（坊岡峰子先生） 7/10 に予定されていたが豪雨災害のため、資料の学科内回覧で替えた。</p> <p>2. 10/31 平成 29 年度 長期海外学外研修報告（渡辺眞澄先生）</p>

平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告一覧（14/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	平成 30 年度 (1) ピアレビュー 4/23, 5/1・14・21・ 28・6/12・13・ 10/22・26・31・ 11/7・8・19・20・ 21・12/10・18・ 1/31 (2) 伝達研修 7/4・10/17・3/13 (3) FD活動促進 事業 研修会：3/13	三原キャンパス 内	<p>テーマ： 社会福祉士・精神保健福祉士養成教育の内容の充実を図る</p> <p>実施目的： ソーシャルワーク教育における講義・演習・実習科目の質の向上を図るため</p> <p>キーワード： ピアレビュー， ソーシャルワーク教育， 実習教育</p> <p>実施内容：</p> <p>(1) 授業公開 平成 30 年度 5 月の学科会議をふまえ，4 月 23 日から 1 月 31 日までの間に計 19 回（前期 8 回，後期 11 回）の授業公開を行った。授業公開者は 12 名，参観者は 10 名であった。授業公開者や授業参観者の増大を図ること，及びピアレビューの成果の検証が今後の課題である。</p> <p>(2) ソーシャルワーク教育等の伝達研修会（人間福祉学科内） ソーシャルワーク教育学校連盟主催の研修会（6 月 23 日・24 日／10 月 6 日・7 日）及びソーシャルワーク教育学校連盟中国四国ブロックセミナー（3 月 3 日）に学科教員が複数名参加した。研修会について，7 月 4 日・10 月 17 日に 1 限ほどの時間で学科教員に対し伝達研修を行った。なお 3 月 3 日のブロックセミナーの伝達研修は新年度に行う予定である。どの研修会でも社会福祉士・精神保健福祉士の将来的な役割とそのことを踏まえた養成教育の在り様が紹介されていた。伝達研修には毎回 10 人以上の学科教員が参加し，現状把握と養成教育の改善を議論した。</p> <p>(3) 社会福祉実習教育における FD 活動促進事業の実践 「ソーシャルワーク実践に焦点化し学生の学習プロセスに配慮した社会福祉実習教育システムの構築—学習過程のモニタリングによる実習教育方法の再検討を通して—」というテーマで FD 活動促進事業を行い，報告書をまとめた。また 3 月 13 日に研修会を実施した。</p>

平成 30 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による F D 活動（教育改善）報告一覧（15/15）

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
全学共通 教育部門	本岡 直子	平成 30 年度 授業期間中	全学	テーマ：学修成果の把握と検証
				実施目的：試行版ルーブリックを用いて、学習状況、学修成果を把握する。
				キーワード：学修成果、ルーブリック、大学基礎セミナー
				実施内容： 平成 27 年度に導入した初年時導入科目「大学基礎セミナー」について、科目設置時の目標の達成状況と現状について、科目ルーブリックを用いて学生に自己評価を求める手法で調査を行った。 その結果、全体的に「大学基礎セミナー」の科目の目標は概ね達成している状況が示されたが、一部の学力やスキルについては、さらなる学修が必要だと認識されている状況であることも示され、初年次教育の在り方について検討を行った。ルーブリックの改訂を検討すると共に、初年次教育、および全学共通教育全体の在り方への検討を引き続き行う予定である。